荒尾市立府本小学校　校長便り　№.１０８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年6月26日(金)

徒然

梅雨の只中、通勤途上、季節の移ろいを感じています。熊本市の西里小付近では田植えも殆ど終わっているようです。植木町では狭い土地や傾斜地に工夫して稲作がされていて、田植えが終わった田んぼがとてもきれいです。玉名バイパス付近では、菊池川周辺に田植えが終わっています。

雨が多い季節ではありますが、それでも自然の恵みや多くの人々の手によって、私達の食生活や文化が成り立っているのだなと感じるひと時です。

稲作の大変さは「除草」にあると思います。梅雨が明けると暑さも相まって大変な作業になります。田んぼは一面濃い緑となって、夏の活力を感じる季節です。

そして、秋には収穫となるわけですが、秋は一面黄金色、収穫の時期は温かな気持ちになります。

通勤や登校にかかる時間は、どちらかというと生産性はあまり高くないのかもしれません。でも、考え方によっては心の生産性を高める時間になるのではないでしょうか。私は通勤を楽しんでいます。

居場所としての学級

学級は子ども達にとって掛け替えのない場所です。そこは、安心、共感、協働、共同、支持的風土等々、人が安心して過ごすことができる要素が空気の中に漂っていることが重要です。居場所となっていない学級の雰囲気は、その全く逆を考えて頂くと分かりやすいですね。

私は毎日、その様な視点で学校内を巡視しますが、学級それぞれに色々なカラーがあり、先生方も相当な力を注いでいるのが分かります。「よくがんばってんなぁ。」と思いながら校内巡視しています。

さて、このお便りのタイトル「みんなの居場所」に、私がどのような気持ちを込めているか、もうお解かりの人もいらっしゃると思います。子ども達にとって、教師にとって、保護者にとって、府本小に関わる全ての人にとって居場所であってほしいという意味で名付けています。私はこの視点を忘れずに業務に当たっています。

少しボヤいてもいいですか？　それでも、うまくいかないことの方が多いですね。誰かが言っていました。「世の中は思い通りにならないことの方が多い」良かれと思ってやることが裏目に出たり、指導したにも拘らず予期せぬことが起こったり…。教頭になった頃、そんなことがとても多く、震災も重なって心が折れそうになったことを思い出します。教頭職に慣れてきた頃、私は最悪を想定して仕事をするようにしました。多くの事態をすべて想定内として捉えなおし、それが起こった時の対応と、起こらないようにするための事前対策を考えて仕事をしたのです。そうすると、自然と私自身の居場所はここだという風に考えられるようになりました。居場所づくりは自身の考え方と、仲間との協働が大切だと感じています。

シリーズ「自分を語る」#108

少しおさらいをしましょう。

知事部局から帰ってきて案の定の6年担任を任せて頂き、水を得た魚の如く…ではなく、てんやわんやの毎日を過ごしていた澤田ですが、どうにか軌道に乗った学級はあちらこちらで結果を出していきます。「ナイトハイク」「キャンプ」と大きな行事を夏休み中に二つもこなし、子ども達も私達も充実した毎日を過ごしていた矢先、音楽会の練習中に新型インフルエンザによる学級閉鎖。それにもめげず、他校の白い目をかいくぐりながら、演奏だけとっと済ませて帰る澤田組。バンド名は「ニュー・タイプ」あちらこちらで演奏することとなっていきました。と、まぁここまでした。では続きです。

そんなこんなで楽しい毎日を過ごす子ども達と担任教師なのですが、たまには息抜きも必要です。ある日の授業中、子ども達におもむろに一言。

「おい、どっか行こうか？」

「えっ…、どこか行くって…!?」

「何もなかけん、何かこう、おもろくないやろ。」

「でもどこへ？」

「取り敢えず、校区内でどっかなかや？」

「・・・」

「しょうがない、まずは両八幡さんに行こう。あそこは今銀杏がきれいなはずだ。」

伊倉小学校校区には北の八幡様と南の八幡様があって、道を挟んでそっぽ向いた状態で並んでいらっしゃるんですよ。色々な歴史があるらしいのですが、当時はそれを調べる時間も気力もなく、子ども達とともにかく一緒にいることが楽しかった時代ですから、学校や学級だけでなく違うシチュエーションで子ども達と過ごすことにも喜びを感じていました。

11月の終わり頃だったでしょうか、銀杏の見頃というよりは、銀杏の葉っぱが境内に沢山落ちていて、それはそれは綺麗な光景でした。しゃがんで見ると黄色の海みたいで、そこを泳いでみたくなる衝動にかられるほどでした。で、子ども達と一緒に黄色の銀杏の葉っぱを集めて、みんなでその葉っぱを投げ上げます。ま、お決まりの光景ですが、これがまた綺麗でですねぇ。その時の写真も、当時の学級通信に載せましたよ。学級のみんなが笑顔で秋の終わりを感じた場面でした。私は殆ど毎日、特に行事があるときは必ずこの両八幡にお参りに行っていました。「この行事が、子ども達の心の中にいつまでも刻まれますように。」と。

12月はあまり変化のない月ではありますが、子ども達にとっては何かわくわくする月のようでした。クリスマスからの正月の流れは、おねだりするには絶好の流れですからね。子ども達からも「クリスマス会」の要求が出され、私はいつものように「自分たちで企画運営してくれよ。」ってな感じで子ども達にお任せでした。

準備が順調に進んでいるかに見えた12月初旬の雨の朝、教室の明りが点いているはずなのに点いていません。「何かあったのか？」嫌な予感がしました。前年度の落ち着かない状況がまた繰り返されるのか？　昨日までの姿は一体何だったんだ、俺の努力は水の泡なのか!?　ゆっくりと教室に近づきながら、軽くめまいがしてきました。「行くしかない！」と教室に近づく澤田：運命や如何に!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）